

令和4年度 北海道札幌丘珠高等学校学校評価の分析

令和5年(2023年)3月20日

○ 学校教育目標	○ スクール・ミッション	○ 入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	○ 育成を目指す資質・能力に関する(「ケア」1E-30)・ポリシー	○ 教育課程編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)
強い精神力で、いかなる困難にも挫けない姿勢を養う。 真心で誠意を尽くして人と接し、何でも工夫しながら物事に取り組む人間を目指す。	(1) グローバルな視点と感覚で国内外の諸課題に着目し、日本社会及び国際社会における課題の発見・解決に資する資質・能力や不透明な時代を逞しく生き抜く力の育成 (2) 学習機会と学力を保障するという機能はもとより、社会性・人間性を育むといった社会的機能や生徒が自己肯定感を持ちながら安心・安全な居場所を見出すという福祉的機能を持った学校の実現 (3) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて設定した科目群の学習を通じて、進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成 (4) 向学心や探究心を身に付け、自己の進路決定に向けて意欲的に学習に取り組む生徒育成	(1) 希望する進路目標実現に向かって意欲的に学習する生徒を受け入れる。 (2) 部活動や生徒会活動に積極的に参加し、自己実現を目指す生徒を受け入れる。 (3) 国際文化交流への関心が高く、積極的に交流すに参加する生徒を受け入れる。	(1) 生徒一人一人に夢や希望を実現できる力を育成する。 (2) 生徒一人一人に粘り強く物事に取り組む力を育成する。 (3) 生徒一人一人が豊かな心を持ち、豊かな人間関係を築く力を育成する。	(1) 基礎的・基本的学習事項の定着を図るとともに、個に応じた学力の向上に努める。 (2) 能力・適性・進路に応じた教育課程を工夫し、進路実現に必要な実践力の向上を図る。 (3) 生徒や地域の実態に即し、地域や外部の教育力を生かした探究的な学習を推進する。

分野	番号	評価項目	教職員	生徒	保護者	自己評価(分析)	学校評議委員・PTA後援会役員での意見・要望	改善策(次年度の課題)
学校教育目標	1	強い精神力で、いかなる困難にもくじけない姿勢の育成	2.5	↘	3.0	2.6	・丘珠高校としての教育活動の出力をさらに上げるためには、個々の教員の力量が更に発揮できる環境づくりが必要。 ・保護者アンケートでは、「学校の様子がわからず回答できない」といった回答が多く、HP以外の広報活動など、更なる情報発信が課題。	・スクール・ミッションに基づきスクール・ポリシーを職員全体の共通認識として持ち「選ばれる学校づくり」を推進する。 ・スクールミッションとスクールポリシーの整合性を図り共通行動できるとよい。地域からのクレームを大事にして地域との連携を図る必要がある。 ・ICT機能を積極的に活用し、学校と保護者、地域間のコミュニケーションツールとして有効な活用方法を検討していく。 ・連携と同僚性、協働性の強化(報連相)の徹底 ・50周年事業に向けた準備(協賛会の立ち上げと校内体制の確立) ・働き方改革の推進(業務精査・業務削減・勤務の在り方見直し) ・「お金で解決」できるものは「お金で解決」(外部発注等)
	2	真心で誠意を尽くして人と接し、何でも工夫しながら物事に取り組む態度の育成	3.0		3.1	2.8		
	3	学校教育目標を具現化する日常的教育活動	2.6	↘	-	-		
学習指導	4	学力向上や基礎・基本の定着を図る指導	2.7	↘	3.0	2.9	・アンケートの自由記述(生徒・保護者)に記載されている、生徒対応や授業中の対応など改善することが必要である。学校はそのような状況を把握し、どう対応しているのか。(保護などからの問い合わせに対しては状況を確認し、改善に向けた取り組みをしている) ・授業規律は守られ、基礎基本の定着を図ったが更なる改善が必要。 ・タブレットを活用した授業改善は今後の課題であり、早急に対応していくためにも校内研修などを実施する必要。 ・家庭学習の習慣化が大きな課題である。 ・日常の欠席の状態が蔓延化し、冬期講習や部活動の欠席が激増している。欠席に対する対応を検討する必要がある。	・職員同士の授業参観を土台に、生徒・保護者の信頼を勝ち取る授業改善。3年間を見通したPDCAサイクルによる改善・推進。 ・一人一台端末の授業時の活用。探究的な学習の再構築と充実。生徒の学びを保障するためにオンライン授業やオンデマンド授業を実施。 ・コロナ前に実施していた姉妹校連携や国際交流実施に向けた準備 ・観点別評価の更なる取り組みと教務内規整備。前期中間調査廃止による生徒の学習定着度を測る工夫。
	5	公開授業や授業評価の活用を通じた授業改善への取組	2.6		2.8	2.7		
	6	フィールド制を柱としたカリキュラムマネジメントの充実	2.5		3.1	2.9		
生徒指導	7	ATM運動(挨拶、時間、マナー)による規範意識の醸成	3.1		3.3	2.9	・ATM+S指導においては、全教職員で行う指導体制のもと成果を上げることができた。 ・交通安全教育やネットモラル教育については、コロナ禍の状況で工夫を凝らして講演会等を実施することができた。 ・自転通学している生徒について、丘珠空港通りを自転車を通る際にスピードを出し過ぎの生徒がいる。 ・歩行者に接触したこともあり危険なので自転車通学のマナー指導をお願いしたい。 ・スマホの使用について、使用するルールを決めて、生徒の連絡手段として利用を認めて欲しい。朝と下校時間の利用可や授業中に使用しないなどルールを作り生徒の利用を可能にする。	・挨拶運動やスマートフォン使用マナーについては、継続して取り組んでいく必要がある。校内でのスマートフォン利用について生徒会と連携しながら使用に向けた問題点などを洗い出し改善していく必要がある。 ・全体指導にこだわらずに、学年毎や学級毎に実施できる方法を検討する。 ・生徒指導提言を踏まえた生徒指導のための校内研修会実施。 ・校則等の見直しに向けた「学校生活のきまり」再確認。 ・「ATM+S」を柱とした基本的生活習慣の確立。生活サイクルの乱れた生徒への初期
	8	交通安全指導の推進	3.2		3.3	3.0		
	9	ネットモラル教育の充実	2.5		3.3	2.7		
特別活動	10	充実した生徒会活動による人間関係の構築	2.8		3.0	2.8	・生徒が自主的に取り組んだイルミネーション企画は大変良かった。 ・コロナ禍による様々な制約の中で、学校祭を中心として学校行事が徐々に再開できた。	・イルミネーションは、本校の特色となるよう今後も継続していく。 ・コロナ禍でも、工夫した取組を実施し、委員会活動、部活動を充実させていく。学校ホームページでの情報発信にも力を入れていく。 ・部活動活性化のために必要な手立てを考察する。
	11	行事などの特別活動による主体性の育成	2.9	↘	3.3	2.9		
	12	部活動の充実	2.4	↘	3.0	2.9		
進路指導	13	進路実現に向けた計画的な行動	2.8		3.1	2.9	・コロナ禍で様々な制約の中、生徒に自らの進路について考える活動をどう設定していくかが課題。 ・大学受験等の試験日程や内容の変更に迅速に対応することができた。 ・Web出願や総合型選抜に対する受験指導に対応する取組が必要である。	・3年間を見通した「キャリアマップ」を有効活用し、3年間を通じて体験学習、進路探究活動を効果的に取り入れることで、自己理解の深化や主体的な学習活動のための適切な支援を行う必要がある。 ・生徒の進路目標設定と目標達成のための高い次元の取組。
	14	進路活動に必要な探究心の育成	2.6		-	-		
	15	望ましい職業観・勤労観の育成	2.8		3.1	2.9		
健康安全	16	いじめの未然防止、早期発見、早期解消への対応	3.0		3.1	2.8	・必要に応じて、担任・学年・他分掌と連携を図り対応することができた。教育相談については、サポート委員会を中心に不登校生徒等のサポートをどのようにしていくかが今後の課題である。	・サポート委員会の在り方を関係部署と検討することで、一定程度開催することができたがより一層の生徒対応が必要である。 ・発達支援的・教育相談的な生徒指導のために全職員が共通認識を持つために定期的な情報共有をする場面を設定する。 ・不登校や転退学防止のために学年内で情報共有を徹底する。(継続して登校していない場合は学年内で共有。5日間登校していない場合は家庭訪問実施)
	17	健康状態の把握やけがや疾病を予防する指導	3.0		3.2	2.9		
教育情報	18	個人情報について適切に扱われている。	3.0			3.2	・継続して図書の新規購入、廃棄、古い図書の書庫への移動を進めた。ただし、膨大な時間を要する作業であることから、そのための人員が必要な状況。	・図書登録システムを統一するための方策を検討し新しいシステムを導入した。
	19	図書・視聴覚の整備、学習環境の整備	2.7		3.0	2.7		
学校運営	20	学校の広報活動(HP、学校案内等)の充実	2.8	↘	3.0	2.9	・冬になると教室が寒いと聞いている。外套の着用やブランケットの利用を認めることはできないのか。 ・体育館が寒い。暖房を工夫するなどして、生徒が健康に学校生活を送ることが出来るようにしてほしい。 ・スクール便の増便を要望する。冬場は生徒がバス待ちをしているので、せめて生徒玄関でバス待ちできるようにしてほしい。 ・校舎設備を改善して欲しい。机がガタガタしている。	・学校ホームページのコンテンツ更新やスマートフォン版での閲覧も考慮し、配置等も更に工夫していく必要がある。 ・ICT教育を更に推進していく必要があり、特に授業での有効活用を図り、個別最適な学びを保障していく対策を全教職で共有していく。また、オンラインでの教育活動に取り組み学びを止めない工夫をしていく。具体的には有事の時のオンラインによる授業配信を実施していく。 ・様々な工夫をすることでPTA活動を活性化させていく。
	21	備品や設備の整備	2.5	↘	2.7	2.6		
	22	PTA活動の活性化	3.0		-	2.9		
	23	保護者や地域との連携	2.6		-	2.8		
平均			2.8	3.1	2.8			